



読むこと・書くこと

物語

組

番 名前

たしかめよう

(高学年)

## 【内容理解】

様々な文章を比較して読み、自分の考えを表現する。

- 1 あきらさんは、「ごんぎつね」を読んで、以前に読んだ「大造じいさんとガン」とひかくして次のような感想をもちました。物語と感想を読んで、あとの問いに答えましょう。

「ごんぎつね」

新美 南吉 作



これは、わたしが小さいときに、村の大造じいさんからお話を聞いたお話です。  
(中略)  
「ようし」。

兵十は立ち上がって、なやにかけてある火なわじゅうをとって、火薬をつめました。そして、足音をしのばせて近づいて、今、戸口を出ようとするごんを、ドンとうちました。

ごんは、ばたりとたおれました。兵十はかけよってきました。うちの中を見ると、土間にくりが固めて置いてあるのが目につきました。

「おや」。

「ごん、おまえだったのか、いつも、くりをくれたのは」。

ごんは、ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。

## 【あきらさんの感想】

「ごんぎつね」と「大造じいさんとガン」の二つの物語には、いくつか共通点があります。まず、人から聞いた話をもとに作られていることです。また、動物が主人公としてえがかれていることも共通しています。

ごんぎつねのごんは、山の中に住む一人ぼっちの子ぎつねで、村へおりてきては悪さばかりしています。でも、それはごんのさびしさからくるものかもしれないと思います。

ある日、自分のしたいことが、兵十をとっても悲しませたことをごんは知ります。その日からつぐないが始まります。しかし、兵十とごんの気持ちのすれちがいからごんはじゅうでうたれてしまします。土間にくりが固めて置いてあるのを目にしたときの兵十の気持ちはどんなだったでしょう。この時になって、ごんは初めて「ひとりぼっちじゃない」「ぼくの理解者ができた」と。思ったのではないかと思えます。

一方、残雪はガンの頭領で、頭もよく、むれをひきいてリーダーとしてりっぱに大造じいさんと戦います。とくに感動したのは、おとりのガンがハヤブサにねらわれたときの「さつと、大きながけが空を横切りました。ガンの頭領、残雪です。残雪の目には、人間もハヤブサもありませんでした。ただ、救わねばならぬ仲間のすがたがあるだけでした」というところ。仲間がいるから、強くも優しくもなれるのではないかと思えます。大造じいさんが、人間にしか使わない「英雄」という表現で残雪をよんだのもわかる気がします。

このように、どちらの物語にも、最後には人と動物の気持ちの通じ合う場面があったことも、動物好きのぼくには、うれしく思われました。

- 1 あきらさんは二つの物語の共通点をあげています。それはどんなことですか。【あきらさんの感想】から二つ、そのまま書きぬきましょう。

3	2	1

- 2 あきらさんは「動物好きのぼくには、うれしく思われました」と書いています。それは、なぜだと思えますか。【あきらさんの感想】の言葉を使って、六十字以上、八十字以内で書きましょう。

★ 解答用の原こう用紙に書きましょう。



読むこと・書くこと

物語

組

番 名前

たしかめよう

(高学年)

【内容理解】 様々な文章を比較して読み、自分の考えを表現する。

1 あきらさんは、「ごんぎつね」を読んで、以前に読んだ「大造じいさんとガン」とひかくして次のような感想をもちました。物語と感想を読んで、あとの問いに答えましょう。

「ごんぎつね」

新美 南吉 作



これは、わたしが小さいときに、村の茂平というおじいさんから聞いたお話です。

(中略)

「ようし」。

兵十は立ち上がって、なやにかけてある火なわじゅうをとって、火薬をつめました。そして、足音をしのばせて近づいて、今、戸口を出ようとするごんを、ドンとうちました。

ごんは、ばたりとたおれました。

兵十はかけよってきました。うちの中を見ると、土間にくりが固めて置いてあるのが目につきました。

「おや」。

「ごん、おまえだったのか、いつも、くりをくれたのは」。

ごんは、ぐつたりと目をつぶったまま、うなずきました。青いけむりが、まだつづ口から細く出ていました。

【あきらさんの感想】

「ごんぎつね」と「大造じいさんとガン」の二つの物語には、いくつか共通点があります。まず、人から聞いた話をもとに作られていることです。また、動物が主人公としてえがかれていることも共通しています。

ごんぎつねのごんは、山の中に住む一人ぼっちの子ぎつねで、村へおりてきては悪さばかりしています。でも、それはごんのさびしさからくるものかもしれないと思います。

ある日、自分のしたいことが、兵十をとっても悲しませたことをごんは知ります。その日からつぐないが始まります。しかし、兵十とごんの気持ちのすれちがいから、ごんはじゅうでうたれてしまいます。土間にくりが固めて置いてあるのを目にしたときの兵十の気持ちはどんなだったでしょう。この時になって、ごんは初めて「ひとりぼっちじゃない」「ぼくの理解者ができた」と、思ったのではないかと思います。

一方、残雪はガンの頭領で、頭もよく、むれをひきいてリーダーとしてりっぱに大造じいさんと戦います。とくに感動したのは、おとりのガンがハヤブサにねらわれたときの「さつと、大きなかがけが空を横切りました。ガンの頭領残雪です。残雪の目には、人間もハヤブサもありませんでした。ただ、救わねばならぬ仲間のすがたがあるだけでした」というところです。仲間がいるから、強くも優しくもなれるのではないかと思います。大造じいさんが、人間にしか使わない「英雄」という表現で残雪をよんだのもわかる気がします。

このように、どちらの物語にも、最後には人と動物の気持ちの通じ合う場面があったことも、動物好きのぼくには、うれしく思われました。

一 あきらさんは二つの物語の共通点をあげています。それはどんなことですか。【あきらさんの感想】から三つ、そのまま書きぬきましょう。

1	人から聞いた話をもとに作られていること
2	動物が主人公として、えがかれていること
3	(最後には) 人と動物の気持ちの通じ合う場面があったこと

二 あきらさんは「動物好きのぼくには、うれしく思われました」と書いています。それは、なぜだと思いますか。【あきらさんの感想】の言葉を使って、六十字以上、八十字以内で書きましょう。

(例)「理解者」や「英雄」という言葉からわかるように、最初はてきみかただった人間と動物が最後には相手を認め、気持ちを通じ合わせる場面があったから。(七十字)

二 あきらさんは「動物好きのぼくには、うれしく思われました」と書いています。それは、なぜだと思えますか。【あきらさんの感想】の言葉を使って、六十字以上、八十字以内で書きましょう。

◆の印から、書き始めましょう。

[illegible]